

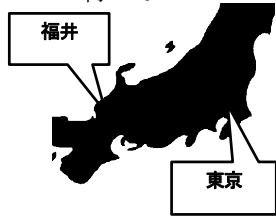


眼鏡のふるさと・福井を訪ねて①

皆さまが普段お使いの眼鏡のフレーム(枠)は、どこで作られたものかご存じでしょうか？

最近では、価格面で有利な中国製や、デザイン性に優れたフランス、イタリア、オーストリアといった欧州製も多数出回っていますが、品質に優れた日本製も根強い人気があります。

日本製のフレームのほとんど(約95%)は、福井県鯖江(さばえ)市や、隣の福井市にて製造されています。特に鯖江市は、人口約6万8千人(市のwebサイトより)の地方都市ですが、日本一の眼鏡のまちとして知る人ぞ知る存在です。



明治時代に、雪に閉ざされる冬の農閑期の副業として、当時の村会議員だった増永五左エ門が屋内でできる眼鏡フレーム作りを思い立ち、大阪から職人を招聘して工場を立ち上げたのが始ま

りです。今でも、この会社は「増永眼鏡(株)」として高級品を中心に世に送り出しています。

さて、私は眼鏡小売業界に身を置いて丸8年になりますが、今月、初めてその製造工場と、壊れた眼鏡を修理する専門工場を訪ねる機会を得て、たっぷり見学して参りました。

眼鏡フレームの工場は、オートメーションでロボットがポンポン作り出していくイメージを持っていましたが、あにはからんや、正に日本が誇る職人芸の世界でありました。うら若きお姉さんから、慣れた手さばきのおばさんまで、女性の方がたくさん活躍する世界でもありました。

来月の77号では、眼鏡修理の専門工場・鈴木眼鏡工業(株)について、再来月の80号では、先ほどご紹介した増永眼鏡(株)について、それぞれ詳しくご紹介いたします。どうぞ、お楽しみに！



【消費生活アドバイザー】
佐藤 祐一郎

◆メガネのサトウ◆

南千住5丁目43の13【コッ通り】
TEL 03 (3806) 4930

★営業時間のご案内★

平日・土曜：AM 10時～PM 7時30分
日曜・祝日：AM 11時～PM 6時30分
◎6月25日、7月11日、21日、31日は休業日でございます。

「荒川ふるさと文化館だより」の最新号(第20号)が発刊!



何と山梨県で…

毎回、区の歴史・文化に関するコラムを多数掲載!

荒川ふるさと文化館、区内図書館、区役所2階情報提供コーナーなどで無償配布しています。

最新号掲載記事

●平成19年度企画展「こぼれ話」橋を守るのは誰? 「ファンからサポーターへ」

江戸で最も長寿の橋であり、荒川区の誇るべき文化財「千住大橋」の歴史と文化を展示し、好評の内に幕を閉じた前年度企画展の「こぼれ話」

●マチの軌跡―水運と陸運の中継地点「隅田川駅」

南千住四丁目にある貨物輸送用駅「隅田川駅」の歴史を紹介。

●土の中の荒川区「町屋でまたまた発見!」

「町屋四丁目実揚遺跡D地点」の調査報告。古墳時代から平安時代にかけての遺構、遺物を発見!

●うれしいお買いもの一山梨県で《小塚原》!?

最近、新たに文化館に收藏された「小塚原刑場」の絵葉書。その絵葉書の作られた経緯をたどった結果、

●職人「こぼれ話」地口行灯と地口絵」平成19年度、荒川区の登録無形文化財となった伝統技術「地口絵」。その由来、更に技術を扱う荒川区の提灯文字職人、村田修一氏を紹介。

●あらかわタイムトンネルズ「明治の“自動販売機” 第一瑞光尋常高等小学校の場合」

時は明治時代。南千住の第一瑞光尋常高等小学校に何とも珍しい自動販売機があった!



元松竹歌劇団・甲斐京子コンサート(無料)

銀の杖、オヤジの会共催

日時 6月28日(土) 午後3時～4時30分

会場 アクト21

対象 認知症介護の家族または関心のある方

後援 荒川区

共催・申込み・問合せ 銀の杖(荒川区認知症高齢者を支える家族の会)・関 電話・FAX (3807) 0570

※アクト21 東尾久5-9-3熊野前下車1分

TEL 3809-2890